

# 日農イッポンフロアブル

[ピラクロニル・プロモブチド・ベンスルフロンメチル水和剤]

農林水産省登録 第22140号

有効成分 ピラクロニル…4.0%  
プロモブチド…18.0%  
ベンスルフロンメチル…1.4%

性 状 類白色水和性粘稠懸濁液体

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：5年 包装：500ml×20、2ℓ×6 RACコード：除草[14][30][2]

## 特長

- ノビエからSU抵抗性広葉雑草まで幅広く効く新規有効成分のピラクロニル、SU抵抗性ホタルイに効果の高いプロモブチド、多年生雑草に安定した効果を示すベンスルフロンメチルを配合した3成分混合の水稻用初中期一発処理除草剤です。
- 色々な施用方法（田植同時処理水口処理無人ヘリ処理）が可能な剤です。
- 除草効果の発現が速い薬剤です（速効的）。

## 効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使い切る。
- 使用前に容器を軽く振る。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意する。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、エゾノサヤマカグサは2葉期まで、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 苗の植付が均一となるように代かきをていねいに行う。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ及びシズイに使用する場合には、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。
- 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させる。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め田面水があふれないように注意する。
- 本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守る。
  - 滴下は使用機種の使用基準に従って実施する。
  - 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しない。
  - 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行う。
  - 隣接するほ場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わない。
  - 水源池、飲料用水等に本剤が流入しないように十分注意する。
  - 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。
  - 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しない。
- 本剤の散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意する。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。
- 本剤を移植時に散布する場合には、所定量を均一に散布できる田植同時散布機を使用する。

- 中苗、成苗の場合、稲に付着すると一過性の接触害が生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 強風時の散布はさける。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm／日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- 直播水稻に使用する場合は以下に注意する。
  - 1) 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
  - 2) 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布する。
  - 3) 必要に応じて有効な初期処理剤との組み合わせで使用する。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
- いぐさ栽培予定水田では使用しない。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しない。
- 容器等はほ場などに放置せず、適切に処理する。
- 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理する。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しない。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用する。特に初めて使用する場合や異常気象時は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 安全使用上の注意事項

- 散布の際は手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

### 水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ 2.5葉期 ただし、移植後30 日まで	500mℓ/10a	1回	原液湛水散布、水 口施用又は無人航 空機による滴下
		移植時			田植同時散布機で 施用
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ヒルムシロ セリ	イネ1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、収穫90日 前まで			原液湛水散布又は 無人航空機による 滴下

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチ ルを含む農薬の総使 用回数
2回以内	2回以内	2回以内

製品写真



最新の登録内容はこちら

